

中間評価

【第1学年】

国 ワークシートなどを活用して、字形や筆順に気を付けて、丁寧に平仮名やカタカナを練習することができた。しかし、助詞、促音、拗音の正しい使い方を身に付けるため、視写や文章を書く機会を多く設けたが、十分に身に付いていない。

算 たし算やひき算は、計算カードやワークシートでの反復学習を通して、繰り上がりや繰り下がりの方、数の構成の理解が深まってきた。一方で、文章問題を正しく理解し、立式する力を高めていく必要がある。

【第2学年】

国 毎日の漢字学習で、読み方や筆順を確認し、練習を繰り返したことで、手本を見て丁寧に正確に書くことができるようになってきた。しかし、文章を書く際、既習の漢字を使うことを定着させていく必要がある。

算 答えが3けたになる足し算の筆算や、引かれる数が3けたのひき算の筆算問題は、練習問題に取り組む時間を多く設けることで、計算の手順に気をつけながら答えを求めることができた。しかし、平面図形の学習では、頂点や直角、辺など、図形を構成する要素の理解が浅く、図形の特徴を正しく捉えきれない姿があった。

【第3学年】

国 物語文を読む機会が増えたことで、登場人物の心情を読み取る力が身についてきた。一方で、語彙が少なく、物語を読む中で言葉の意味が分からないため、文章を読み取る力に課題がある。語彙を増やしていく工夫を取り入れる必要がある。

【第1学年】

国 平仮名やカタカナを十分に習得できていない児童には、手元に平仮名表（カタカナ表）を置くなどして支援する。助詞等の正しい使い方を身に付けていくため、単元毎にワークシートを活用し、書く機会を多く取り入れる。また、授業以外にも「あのねノート」を活用し、文章を書く習慣を付けていく。

算 繰り上がりや繰り下がりのある計算についての理解を深めるため、引き続き計算カードを活用する。また、ブロックなどの具体物を操作しながら理解を深めていく。また、文中にある、「分っていること」「求めること」について読み取り、正確に立式できるようにする。また、キーワード（「あわせて」「のこりは」等）に注目する習慣を付けていく。

【第2学年】

国 作文指導等の中で習った漢字を使うように、繰り返し、指導していく。単元ごとに振り返りの時間を設け、気が付いたことや自分の考えなどを、短い言葉で書く習慣を付けていく。

算 計算の手順や繰り上げ・繰り下げを忘れないよう、適宜復習問題に取り組む時間を設ける。具体物に触れながら、図形を構成する要素への理解を深めていく。

【第3学年】

国 説明文に関しても、段落相互の関係に気を付けながら読み、筆者の主張を捉えることができるようになる。国語辞典を使って調べた結果をノートに書き溜めることで、語彙力を高めていく。また「言葉のたからばこ」を活用する。

算 解けない問題があっても、周囲の友達と相談しながら粘り強く取り組む姿勢がある。しかし、文章をしっかり読み解く力や立式に課題がある。また自分の考えの根拠をもって説明できる力を伸ばす必要がある。

【第4学年】

国 学習のめあてに対して叙述を根拠に自分の考えを生み出そうと、線を引くなどしながら何度も教科書を読み返す児童の姿が見られる。また、辞書の活用等で語彙について感心が高まっているが、慣用句や熟語への理解はさらに高める必要がある。

算 計算のきまりでは、文章をよく読み返しながら問題を理解し、() を使って立式できる児童が増えた。一方でわり算の筆算について課題が残る。特に3桁÷2桁や3桁÷3桁の筆算では、仮の商の立て方やどの位に商を立てるかなどにつまずきが見られる。

【第5学年】

国 朝学習や宿題などで定期的・継続的に文章を書く活動を行ってきたことで、書くことへの抵抗が減り、自分の考えを表現する力が少しずつ高まってきた。一方で、既習の漢字を使ったり、感情や様子を表す豊かな表現を使ったりすることにはまだ課題が残る。

算 意図的・計画的に解き方を伝え合う学習活動(ペアやグループ活動など)を行ってきたことで、よりよい解き方を求める学習姿勢が身に付いてきた。一方で、学習内容の確実な定着と解答後に見直しをするなど学習に丁寧に取り組む姿勢を習慣にすることが課題である。

算 今後も、ペア学習やグループ学習を継続し、意図的に学習に臨める環境を作っていく。正確に立式できるようにキーワード(「のこりは」「わけると)」に注目する習慣を付けていく。さらに、1つの方法だけでなく様々な方法を紹介したり発表させたりすることで、説明の幅が広がるようにする。

【第4学年】

国 叙述をもとにした自分の考えを友達と交流することで、互いの考えのよさを知ったり新しい気づきが生まれたりできるように、交流の機会を充実させていく。さらには国語に限らず、意味を押さえない言葉は教師が意図的に取り上げて児童が語句の意味を調べる機会を増やしていく。

算 問題文を読むだけではイメージができない児童も、内容を図や絵で表すと立式が簡単にできたため、引き続き問題の読み取りを丁寧に指導する。また、デジタルドリルやプリント等で反復練習を定期的に行う。また、検算をしながら確認するように促す。

【第5学年】

国 今後も書くことに取り組む時間を継続的に確保し、考えを表現する力を高めていく。また、国語だけでなく、新聞づくりなど日常の様々な場面で、「既習の漢字を意識しながら文章を書くこと」「事実だけでなく、様子や感情を表す表現を活用すること」について声を掛け、実践していく。

算 今後も解き方を伝え合う学習活動を各単元の学習の一部に位置付けていく。また、よりよい解き方を求める姿勢を認め、価値付けることで、より一層この姿勢が身に付くようにする。宿題等でも、デジタルドリルを積極的に活用し、学習内容の確実な定着を図る。さらに、「見直しをする」「見やすい字や構図でノートを書く」などについて声を掛け、丁寧に学習に取り組む姿勢が身に付くようにする。

【第6学年】

国 小グループでのスピーチや話し合いの機会を増やし、全員参加型の話し合いの経験を積み重ねたことで、相手の言いたいことを考えながら聞いたり、要点を絞って自分の考えを話したりする力が向上してきた。一方、語彙力については、まだ個人差が大きく、自分の伝えたいことを表現するのにふさわしい言葉が出てこない様子が見られる。

算 自分の考えを説明したり、他者の考えを読み取ったりする時間を設けることで、正しく立式することが出来るようになってきた。また、問題に取り組む前に予想を立てたり、おおよその数で考えたりすることで小数点の位置の間違いなどが減り、正しく計算することができるようになってきた。一方、面積や体積の公式などが定着しておらず、答えを求められない児童もいる。

【特別支援】

- ・児童の実態と習熟度に合わせて、国算の教科グループ編成をし、きめ細やかな個別指導を行うことができています。しかし、学習理解に個人差が大きいことが課題である。
- ・学級園での野菜や花の栽培などの自然体験や調理学習などの体験的な活動を多く取り入れ、友だち同士の関りや表現力を育成している。

【第6学年】

国 分からない言葉に出会ったときは、すぐに意味を調べる習慣をつけるよう声掛けし、全体でも共有していく。読書をじっくりできる時間を確保したり、常に教室前に新聞記事を掲示しておいたりすることで、様々な文章を目にする機会を増やす。問題を解く際には、必ず予想を立ててから考えるように声掛けをする。

算 東京ベーシックドリルやデジタルドリルなどを活用し、自分の苦手範囲を理解し取り組めるようにする。また、公式だけでなく、公式が成り立つまでの過程なども含め教室に掲示する。

【特別支援】

- ・学習内容に応じて柔軟にグループの編成を変えたり、個別課題の取り組みを充実させたりして、理解力向上を目指していく。
- ・丁寧な事前指導を行い、それぞれの役割に責任をもち、見通しをもって主体的に活動する力が身に付くように支援する。